

平成20年度「科学技術連携施策群」の取りまとめ方針について(案)

1. 科学技術連携施策群の概要

「科学技術連携施策群」(以下「連携群」という。)は、テーマごとのコーディネーターを中心として、各府省において実施される関連施策の連携強化、重複排除等の調整活動を行い、関連施策の成果の最大化を図る仕組みである。

連携強化の観点から補完的に実施すべきと総合科学技術会議が判断した研究開発課題(補完的課題)については、科学技術振興調整費を活用して実施されている。

平成17年度より8テーマ／群について開始した後、平成19年度より新たに6テーマ／群が追加され、合計14テーマ／群について実施されてきた。

このうち、平成19年度をもって補完的課題が全て終了した3テーマ／群については、19年度末から20年度初めにかけて取りまとめを行い、平成20年6月に分野別推進戦略総合PT等に報告している。

2. 平成20年度に補完的課題が終了する連携群の取りまとめ

本年度は5テーマ／群について補完的課題が全て終了するため、これらの連携群について、前年度同様、次ページ以降の事項について簡潔に整理する。

なお、残る6テーマ／群については、第3期科学技術基本計画の分野別推進戦略に関する中間フォローアップと併せて、中間段階でのフォローアップを実施する予定である。

3. 今後のスケジュール

平成21年2月～4月に取りまとめ作業を行い、その後に開催される分野別推進戦略総合PT等において報告する。

目次構成(案)

1. 科学技術連携施策群について

- (1) 制度の目的と手法
- (2) 連携施策群の対象テーマ
- (3) 推進体制
- (4) 補完的に実施すべき研究開発課題(補完的課題)の実施

2. 各科学技術連携施策群の活動と成果、研究目標の進捗状況の評価 [各連携群毎に記載]

(1) ○○○連携施策群の目標

※ 関連分野等における当該連携施策群の位置付け(戦略重点科学技術との関係、政策目標との関係含む)、及び明確な研究目標(方向性と具体的成果、評価指標)を記載するとともに、目標をたてた背景(開始時の状況と問題点等)についても併せて記載

(2) ○○○連携施策群の活動

① 府省間等の連携活動

- ・ 連携システム及び連携活動の総括

※ マッチングファンドや合同検討委員会の設置、関連技術マップ等の作成・共有化・活用、連携促進のための関連施策、地域における連携活動等の具体的な活動成果を記載

※ 連携の最終的な俯瞰図(本連携群に登録された各府省の施策間、及び補完的課題との関係を俯瞰した図)を含む

※ 連携施策群に含まれている府省施策の一覧表(施策名、施策期間、担当府省、各年度の予算額、政策・成果目標及び目標達成状況等記載したもの)を含む

② 補完的課題の成果概要

- ・ 課題の概要
- ・ 成果の概要

※ 成果の詳細(研究成果報告書ではなく数頁程度のものを想定)については別途資料を添付

(3) ○○○連携施策群の成果と研究目標の進捗状況の評価

※ 連携施策群としての具体的な成果を記載して研究目標(方向性と具体的成果、評価指標)の達成状況について評価するとともに、目標どおり(又は目標以上に)達成された背景や理由等を記載

※ 上記と併せ、残された課題や問題点、残された原因/理由等についても具体的に記載【成果の例】新たに付加された価値・成果、調整により改善を行った施策、新たに連携を行うこととなった施策、不必要な重複の排除を行った施策、予算の効率化(削減)を行った施策、成果の社会への還元の加速化(開発時期の早期化等)等

【残された課題や問題点等の例】

関係者間での情報交換や交流は進んだものの、予算の効率的・効果的な利活用や開発時期の早期化といった情報交換や交流以上の具体的な成果が見られなかった等

(4) 今後の課題

※ 今後の連携方策を含めて記載

※ 残された課題や問題点等に対して考えられる対応策についても記載

(5) 参考

- ・ 全体をまとめたポンチ絵を作成

① 目標－活動－成果と研究目標の進捗状況の評価

② 主な具体的成果の事例(1つ以上)

科学技術連携施策群の対象テーマ一覧

(百万円)

連携施策群のテーマ 【コーディネータ】	連携群の目標	主要関係府省	課題 ⇒採択補完の課題名	H17	H18	H19	H20 (予定)	H21
生命科学の基礎・基盤(～H18年度まで「ポストゲノム」) 【五條 孝】	世界最高水準のライフサイエンスデータベースの構築を中心とした、ライフサイエンス研究における国際的優位性の確保を目指す。	文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省	■ライフサイエンス分野のデータベースの統合化に関する調査研究 ⇒生命科学データベース統合に関する調査研究	52	117	116		
新興・再興感染症 【倉田 毅】	新興・再興感染症から国民の安心・安全を守る研究体制の確立を図る。	内閣府、文部科学省、厚生労働省、農林水産省	■ウイルス伝播に関与する野鳥の飛来ルートの調査とそれらの野鳥における病原体調査及びデータベース構築 ⇒野鳥由来ウイルスの生態解明とゲノム解析 ■高度安全実験(BSL-4)施設を必要とする新興感染症対策に関する調査研究 ⇒BSL-4施設を必要とする新興感染症対策	52	156	116		
臨床研究・臨床への橋渡し研究(～H18年度まで「ポストゲノム」) 【松澤 佑次】	がん、生活習慣病、免疫・アレルギー疾患、精神・神経疾患等の疾患に対して国民への画期的治療薬・医療機器・医療技術の迅速な提供を目指す。	文部科学省、厚生労働省、経済産業省	■若手医師の臨床研究者としての育成プログラム開発 ⇒遺伝子・細胞治療に携わる臨床研究者育成			79	86	
食料・生物生産研究(～H18年度まで「ポストゲノム」) 【小川 圭】	環境と調和のとれた安全な食料の生産・供給、ならびに生物機能活用による物質生産のための基盤技術の構築を目指す。	内閣府、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省	■持続的植物生産のための植物・微生物相互作用の解析研究 ⇒植物・微生物間共生におけるゲノム相互作用			79	83	
ユビキタスネットワーク 【齊藤 忠夫】	ユビキタスネットワーク社会実現の上で中核的な技術基盤の確立を図る。	総務省、文部科学省、経済産業省、国土交通省	■医療分野における電子タグ活用のための実証実験 ⇒医療分野における電子タグ活用実証実験 ■ユビキタスネットワークの斬新な実用研究・実証 ⇒電子タグを利用した測位と安全・安心の確保	51	117	116		
次世代ロボット 【佐藤 知正】	次世代ロボットのさまざまな応用分野に共通のプラットフォーム技術の確立を図る。	総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省	■環境の情報構造化プラットフォームの基本モデルの研究開発 ⇒ロボットタウンの実証的研究 ■蓄積と再利用可能なロボット用ソフトウェア基盤の確立 ⇒分散コンポーネント型ロボットシミュレータ ■室内外を移動する人にサービスを提供するための環境情報構造化プロジェクト ⇒施設内外の人計測と環境情報構造化の研究 ■作業空間における物体操作のための環境情報構造化プロジェクト ⇒環境と作業構造のユニバーサルデザイン	25	65	64		
情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発 【西尾章治郎】	独自の情報サービスを提供するためにあらゆる情報(コンテンツ)を簡便、的確、かつ安心して収集、解析、管理する次世代の知的な情報利活用のための基盤技術を開発する。	総務省、文部科学省、経済産業省	■次世代情報環境におけるコンテンツ処理及び知識処理技術開発 ⇒センサ情報の社会利用のためのコンテンツ化			83	94	
ナノバイオテクノロジー 【梶谷 文彦】	ナノとバイオの融合領域研究により健康寿命延伸等安心安全な社会を目指す。	文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、環境省	■分子イメージングによるナンドラッグ・デリバリー・システムの支援 ⇒超臨界ハイブリッドイメージングと治療法 ■ナノバイオセンサ ⇒独自のホール検出システムと磁性ナノビーズを用いた超高度バイオセンサの開発 ■分子イメージングによるナンドラッグ・デリバリー・システムの支援 ⇒1遺伝子可視化法による遺伝子ベクター創製 ■ナノバイオセンサ ⇒生体内分子を可視化するナノセンサ分子開発 ■ナノバイオセンサ ⇒精密構造識別型の電気・光応答バイオセンサ	26	65	64		
ナノテクノロジーの研究開発推進と社会受容に関する基盤開発 【中西 準子】	「ナノテクノロジーの研究開発」及び「社会受容のための研究開発」を集中かつ戦略的に推進することにより、イノベーションの創出を加速する推進基盤の構築を目指す。	文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省	■ナノテクノロジーの研究開発推進の共通基盤となるデータベース指標の構築に向けた調査研究 ⇒社会受容に向けたナノ材料開発支援知識基盤			49	90	
水素利用/燃料電池 【本田 國昭】	水素エネルギー社会実現のため水素利用、燃料電池技術の確立を目指す。	総務省、文部科学省、経済産業省、国土交通省、環境省	■地域等における水素利用システムに関する概念検討 ⇒地域水素エネルギー利用システムの研究 ■需要家用水素計量システムに関する研究開発 ⇒需要家用水素ガス計量システムの研究開発	25	52	51		
バイオマス利活用 【鈴木 基之】	バイオマス利用、燃料転換等の技術開発により循環型社会形成を目指す。	総務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省	■バイオマス利活用事業に関する持続可能性評価手法の開発 ⇒バイオマス利活用システムの設計・評価手法 ■バイオマス利活用事業に関する持続可能性評価手法の開発 ⇒地域完結型地燃料システムの構築と運営	52	117	116		
総合的リスク評価による化学物質の安全管理・活用のための研究開発 【安井 至】	化学物質のライフサイクル全体でのリスク評価の実現、資源を有効活用しつつ化学物質トータルリスクを最小化、国際基準・規制の枠組みづくりに貢献する研究開発を進める。	厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省	■化学物質情報プラットフォームの構築とその活用に関する調査研究 ⇒事業者の化学物質リスク自主管理の情報基盤			70	92	
テロ対策のための研究開発ー現場探知システムの実現ー 【森地 茂】	「安全が誇りとなる国ー世界一安全な国・日本を実現」の実現に向けて、テロ犯罪を未然に防ぐための有害危険物の現場探知・識別技術を確認する。	内閣官房、警察庁、総務省、財務省、文部科学省、経済産業省、国土交通省、防衛省	■放射性物質の探知技術に関する研究 ⇒手荷物中隠匿核物質探知システムの研究開発			87	94	
地域科学技術クラスター 【清水 勇】	地域における革新技術・新産業創出を通じた地域経済の活性化を図る。	内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省	■地域の視点に立った効果的な地域科学技術クラスター形成のための調査研究 ⇒地域イノベーションの構造分析と施策効果	52	117	116		

【科学技術振興調整費ー科学技術連携施策群の効果的・効率的な推進: H17年度契約額: 4億円 H18年度契約額: 15億円 H19年度契約額: 20億円 H20年度契約予定額: 11億円】